

資料 2

府食第 528 号
令和 8 年 9 月 15 日

食品安全委員会委員長 祖父江 友孝 殿

研究・調査企画会議事前・中間評価部会
座長 祖父江 友孝

令和 8 年度食品健康影響評価技術研究の二次公募における採択課題
(案) 及び事前評価結果について

このことについて、令和 8 年 9 月 4 日に開催した令和 8 年度研究・調査企画
会議事前・中間評価部会（第 3 回）における審議の結果、別添のとおり取りま
とめましたので、報告いたします。

(別添)

令和 8 年度

食品健康影響評価技術研究の二次公募における
採択課題（案）及び事前評価結果について

令和 8 年 9 月
研究・調査企画会議
事前・中間評価部会

令和 8 年度食品健康影響評価技術研究の二次公募における
採択課題（案）及び事前評価結果

令和 8 年 7 月 1 日から令和 8 年 7 月 24 日まで公募を行い、2 課題の応募があった。研究・調査企画会議事前・中間評価部会において、応募内容を審査した結果、下表のとおり、1 課題を採択課題（案）として選定し、事前評価結果として評価所見等を取りまとめた。

課題番号	JPCAFSC20262608	研究期間	令和 8 ～ 9 年度	
主任研究者	山内 武紀	所属機関	昭和医科大学	
課題名	食品中無機ヒ素のリスク評価における疫学研究の定量的活用方法に関する研究			
研究概要	食品中の無機ヒ素について、ヒト疫学研究を食品健康影響評価に定量的に活用する方法を整備する。EPA 評価書を参考に、複数の疫学研究を用いた用量反応メタ解析により主要なアウトカムの用量反応曲線を推定し、方法論上の課題を整理する。 さらに、わが国の曝露分布および疾病統計を用いて曝露低減に伴う PAF 等を推定し、健康影響に基づく指標値（Health-Based Guidance Value : HBGV）設定に限らない評価結果の提示方法を検討する。得られた手順・推定方法は、無機ヒ素の再評価および他の食品由来ハザード評価への応用を目指す。			
評価所見	（総合コメント） 公募課題に沿った提案であり、EPA 評価書との比較検討を行い、食品中無機ヒ素の食品健康影響評価においてヒト疫学研究を定量的に活用する手法の整備を目指すものであり、食品安全委員会でのリスク評価に有用な成果が得られるものと判断できる。			
評価点	合計点	研究の必要性	研究の妥当性	期待される研究成果の有用性
	16.5／20 点	4.3／5 点	4.1／5 点	8.1／10 点

研究・調査企画会議 事前・中間評価部会委員

(◎：座長)

磯 博康	国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局 グローバルヘルス政策研究センター センター長
小澤 正吾	岩手医科大学 評議員
鬼武 一夫	日本生活協同組合連合会品質保証本部 総合品質保証担当
宮崎 茂	一般財団法人 生物科学安全研究所 シニアアドバイザー
◎ 祖父江 友孝	食品安全委員会 委員長
浅野 哲	食品安全委員会 委員長代理 第一順位
頭金 正博	食品安全委員会 委員長代理 第二順位
春日 文子	食品安全委員会 委員長代理 第三順位

評価項目及び評価基準：事前評価

評価項目		評価基準
I	研究の必要性	研究領域の趣旨に沿った研究内容となっているか評価する。 1 食品健康影響評価に関する研究であること 2 研究内容の科学的、技術的意義について 3 関連する研究の実施状況を踏まえ、独創性、新規性等について
II	研究の妥当性	以下の点に関する研究体制及び研究計画、研究遂行の妥当性について評価する。 1 研究の体制(主任研究者、分担研究者の役割分担) 2 主任研究者等の既往の成果、能力 3 研究の計画、方法 4 研究の実施期間における遂行の可能性 5 費用対効果
III	期待される研究成果の有用性	期待される研究成果の活用性とその有用性について評価する。 1 既往の成果、研究手法等を勘案し、研究目標の実施期間内における達成可能性について 2 食品健康影響評価への貢献等の可能性について 3 研究の成果の発展可能性について